

アンネのバラ広めたい

ホロコースト 記念館 幸千中生が接ぎ木

ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害の犠牲になった少女アンネ・フランク(1929～45年)と関係が深い「アンネのバラ」を広める活動に取り組むホロコースト記念館(福山市御幸町中津原)は14日、バラの接ぎ木会を開いた。近くの福山市立幸千中(1)の2年生11人が平和への思いを込めて取り組んだ。

生徒は同校に「アンネのバラ」の花壇を作るため参加した。台木となる野バラの根の断面にナイフで切り込みを入れ、長さ5センチほどのアンネのバラの枝を

2時間半で100本を接ぎ木した。アンネのバラは同校に持ち帰り生徒が育てる。ほかの接ぎ木は苗にして同館から全国に贈られる。2年山元聡真さん(14)は「木が堅く、赤色へと変化する。ベルギーの園芸家が名付け、アンネの父オットー・フランクさんが日本に寄贈して全国に広がった。同館では95年の開館時から育てている。」

(上田勇輝)



アンネのバラの接ぎ木に取り組む生徒